

ハイキング散策の会 しまなみ海道編

第2日目 2月5日(水曜)

小豆島土庄港- 🚢 -新岡山港- 🗨️ -しまなみ海道- 🗨️ - 向島・立花海岸 - 🗨️ - 因島・因島水軍城（村上水軍の資料を展示）- 🗨️ - 今治温泉・今治国際ホテル

新岡山港

小豆島の土庄港からフェリーで70分ほどで新岡山港に到着。そこから尾道まで高速道路を走り、西瀬戸尾道ICを出て向島に向かう。



新岡山港までカモメがフェリーに付き添っていた。



因島大橋



尾道市向島町立花の海岸より因島大橋を望む



立花の海岸にて

因島・因島水軍城

因島水軍城は、広島県尾道市の因島にある村上水軍の資料館である。



城郭風建築物になっているが、ここには過去に天守が存在していたことはない。

因島水軍城資料館には、因島村上氏が残した武具や遺品、古文書など歴史資料を展示している。



資料館には、因島村上氏 6 代当主村上新蔵人吉充が中国から持ち帰った釈迦の涅槃図や小早川隆景より拝領された甲冑など水軍ゆかりの品々が展示されている。





白紫緋糸段威腹巻 附兜眉庇 広島県重文。室町時代末期作の軽武装用鎧。村上吉充が小早川隆景より拝領したと伝わる。

広島県重要文化財
白紫緋糸段緋腹巻
 室町時代末期 因島村上氏の新蔵人吉充の嫡男（吉祐）の元服祝に小早川隆景から拝領したものと伝わる。
 全高 69cm 胴回り 72cm

因島村上家

因島村上家は、中世瀬戸内海の中心にあつて11万4千5百石余を領有した海の大名であり数百年にたつて瀬戸内海の制海を握り、幾多の合戦に参加した他、遣明船の使節達の警護などを行っていました。特に因島村上氏6代当主村上新蔵人吉充は、弘治元年(1555)、毛利氏と陶氏が戦った厳島合戦で毛利氏に加勢し勝利をもたらしました。また、天正四年(1576)7月の木津川口海戦では、毛利警護船団の一翼を担い、織田信長率いる織田水軍を壊滅させ、毛利氏の勝利に大きく貢献しました。

村上海賊(三島村上当主)



村上吉充 (因島村上氏)



村上景親 (能島村上氏)



村上通康 (来島村上氏)

村上海賊三家のその後

関ヶ原合戦が終わり、江戸時代になると、来島村上氏が豊後国森藩（現大分県）の大名に取り立てられる一方、能島・因島村上氏は、周防国・長門国（現山口県）の毛利氏の家臣団に組み込まれました。

来島村上氏
 森藩1万4000石の大名へ、村上から来島へ改姓した初代藩主の庶嗣は、入国当初、角牟礼城に住みました。二代藩主の通春は、久留島と改姓しました。

因島・能島の両村上氏は、萩藩（毛利藩）の御船手組に編成、周防国三由尻・警備町屋敷（現山口県防府市）を拠点に海を所管する業務を所管しました。能島村上氏は組頭へ、

因島村上氏・・・そのまま毛利氏家臣団に残りました。
 能島村上氏・・・能島城退去後、北九州、長門国大津、安芸国竹原などを転々。関ヶ原合戦後に周防国大島（歴代島）へ落ち着きました。

角牟礼城址遺構

今治市

因島水軍城を見学後、来島海峡大橋を通過して、今治市に移動、今治国際ホテルにチェックイン。



今治城は、慶長7年（1604年）、藤堂高虎によって築城開始され、慶長9年（1604年）に完成。堀に海水を引き込んだ海城である。夜間はライトアップが施されている。

三重の堀に海水を引き入れた特異な構造で、当時は海から堀へ直接船で入ることができるなど海上交通の要所今治らしく海を最大限に活用した城となっている。日本三大水城の一つに数えられている。



石垣と内堀がほぼ江戸時代の姿を残している。昭和55年（1980年）に5層6階の天守が鉄筋コンクリートで建てられた。

第3日目 2月6日(木曜)

今治温泉- 🚗 -しまなみ海道- 🚗 - 生口島・耕三寺- 🚗 - 平山郁夫美術館 - 🚗 - 大三島・大山祇神社 - 🚗 - 伯方の塩 - 🚗 - 多々羅しまなみ公園 - 🚗 - 伯方島・船折瀬戸 - 🚗 - 大島・亀老山展望台 - 🚗 -松山空港(19.35発 ANA-598)- ✈️ -羽田空港(21:30着)

瀬戸内しまなみ海道

瀬戸内しまなみ海道は、広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ全長約60kmの道路である。

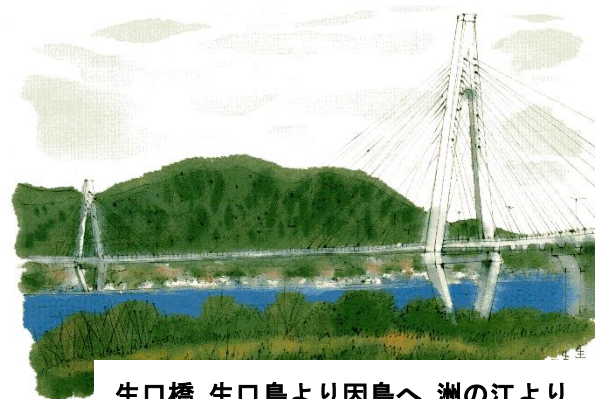


しまなみ海道には、地形や地質などの自然条件や、船舶航行などを考慮し、規模や形式の異なるバラエティに富んだ橋が架けられている。



いくちしま
生口島

生口島は、生口橋で因島と、多々羅大橋で大三島とつながっている。高根大橋で高根島と結ばれている。



生口橋 生口島より因島へ 洲の江より

こうさんじ
耕三寺

広島県生口島にある浄土真宗本願寺派の仏教寺院。元実業家の耕三寺耕三が建立、山号は潮声山（潮聲山）。1936年（昭和11年）から伽藍の建立が始められた新しい寺院で、日本各地の古建築を模して建てられた堂塔が建ち並び、「西の日光」と呼ばれる。山門・本堂をはじめ15の建造物が国の登録有形文化財として登録されている。また、仏像、書画、茶道具などの美術品・文化財を多数所蔵している。無檀家寺院でもある。



耕三寺山門



孝養門（日光東照宮の陽明門を模したとされる）



孝養門を中心に極彩色の堂塔が立ち並ぶ

未来心の丘

未来心の丘は耕三寺博物館が芸術活動の一環として制作した大理石庭園で、周囲の景色の形や色、風雨、光といった自然との調和が表現されたものである。各モニュメントの形と方角は仏の世界を守護する十二天にちなんでいる。





平山郁夫美術館

平山郁夫は、昭和5年(1930)に広島県生口島に生まれた。

瀬戸内の青い海や緑の島々の織り成す豊かな自然の中で少年期を過ごした。神秘的な潮の流れや群青色の海は、平山少年の心に大きな影響を及ぼし、平山郁夫の感性は、瀬戸内の風土に育まれた。昭和20年(1945)8月6日、旧制中学3年の時広島市で被爆。

その後遺症に苦しめられたが、やがて「仏教伝来」を初めとする平和を願う作品を多く描くことになった。本美術館では、平山郁夫の生い立ちや少年時代の絵画、更にスケッチや下絵等が展示されている。



平山郁夫美術館
Hirayama Ikuo Museum of Art



平山郁夫 (ひらやまいくお)

昭和5年(1930)、広島県瀬戸田町(現・尾道市)生まれ。東京美術学校(現・東京藝術大学)日本画科卒業。昭和27年(1952)美術学校卒業と同時に東京芸術大学に奉職、平成7年(1995)学長で退官。平成13年(2001)から17年(2005)まで、再度東京芸術大学長をつとめる。

昭和28年(1953)、「家路」で院展初入選。昭和39年(1964)、日本美術院同人に。平成10年(1998)文化勲章を受章。

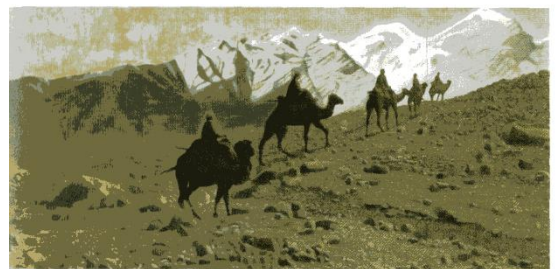
ユネスコ親善大使・世界遺産担当特別顧問、東京国立博物館特任館長、文化財保護・芸術研究助成財団の理事長、日本美術院理事長などをつとめた。

平成21年12月2日永眠(満79歳)。

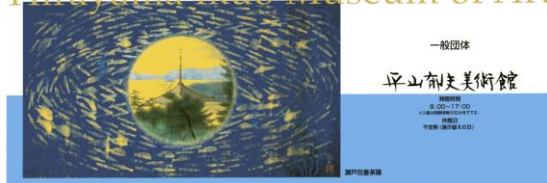


平山郁夫美術館
HIRAYAMA IKUO MUSEUM OF ART

平山



Hirayama Ikuo Museum of Art



郁夫



平山郁夫は、瀬戸内大橋について次のように述べている。

香川県と岡山県の間を流れる瀬戸内海に、四国と本州の最も狭い海峡の瀬戸がある。ここに瀬戸大橋が懸かっている。太古の昔から、人々は、この海峡を指呼の間に見ながら、そう簡単には渡れなかったのである。長い間、四国や対岸の本土に住む人たちにとっては、橋でもかかって自由な往来ができることが大きな夢でもあり、悲願でもあった。それが、近年になって、やっと日本の科学技術と経済力によって長い間の念願が実現した。私も瀬戸内海の広島県の生口島瀬戸田町に生れ、小学校まで育ったので、島の置かれた自然条件というものが分かる。交通などでどんな制約があり、実際にどんな自然環境にあるのか、生活を通じ、体験的に実感しているのでよく分かる。だが、現在は橋が尾道から向島を通して因島に渡り、生口島に通じている。すでに、尾道から生口島は完成しているので、島が本土と繋がり、離島でなくなってしまった。

平山郁夫の瀬戸内関連の作品



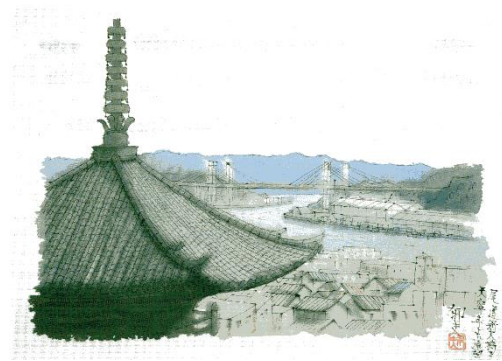
尾道と向島を結ぶ尾道大橋と新尾道大橋



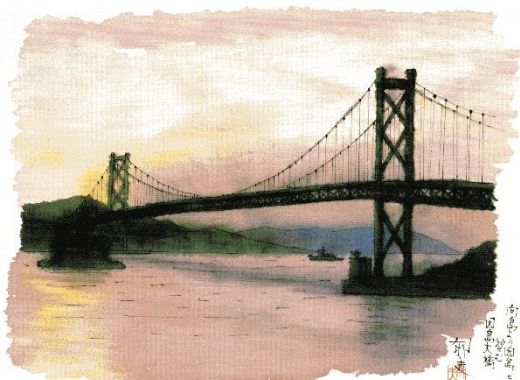
多々羅大橋(生口島を望む)



因島大橋



尾道新大橋を天寧寺より遠望



因島大橋 向島より因島を望む



燦 瀬戸内(輝く瀬戸内海)



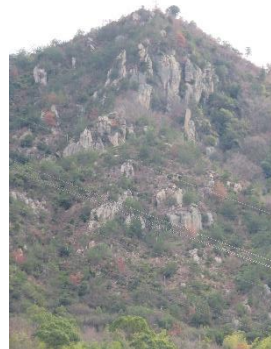
瀬戸中央自動車道の南備讃瀬戸大橋



下津井瀬戸大橋（瀬戸中央自動車道岡山県倉敷市の瀬戸大橋海峡部最北端にある橋）

おおやまづみじんじや
大三島・大山祇神社

全国にある山祇神社（大山祇神社）の総本社。
わしがとうざん
大三島西岸、神体山とする鷲ヶ頭山（標高
436.5メートル）西麓に鎮座する。



わしがとうざん
鷲ヶ頭山

山祇神社は、山の神・海の神・戦いの神として歴代の朝廷や武将から尊崇を集めた。



境内には国の天然記念物「大山祇神社のクスノキ」がある。



また、源氏・平氏をはじめ多くの武将が武具を奉納して武運長久を祈ったため、国宝・重要文化財の指定を受けた日本の甲冑の約4割がこの神社に集まっている。社殿・武具等の文化財として国宝8件、国の重要文化財76件を有し、これらは紫陽殿と国宝館に収納・一般公開されている。



伯方の塩



伯方の塩は、大昔は伯方で作られていたが、現在は、メキシコ産のゲレネグロ或いは豪州産のプライスから輸入した海塩を日本の海水で再融解して作られている。

多々羅しまなみ公園

大三島 IC 近くにある公園。瀬戸内海を背景の「多々羅大橋」を見ることができる。





ふなおりせと
伯方島・船折瀬戸

うしま
伯方島と鷯島の幅約 300mの狭い海峡は、船折瀬戸と呼ばれ、満ち引きで潮の流れる方向が変
わり流れが激しく、その昔、ここを通る船が真二つに折れた事からその名が付けられた。伯方
島の前にわとりこじまにある鷯小島には、神功皇后の金鷄の伝説が伝えられる。





← 船折瀬戸からの伯方・大島大橋



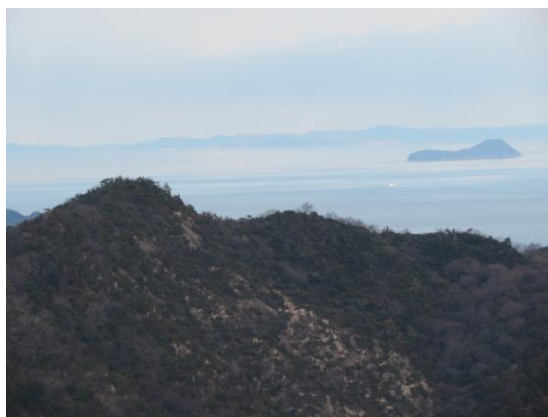
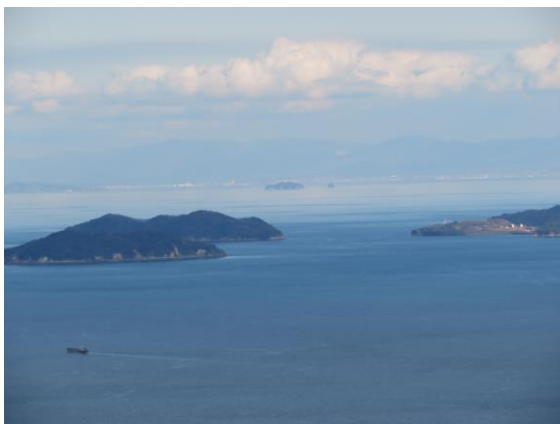
大島・^{きろうさん}亀老山展望台

亀老山は、大島の南部にある山。山頂には、展望台が設置されており、ここからは西に来島海峡、北に芸予諸島の島々、東に燧灘、南に今治港・今治市街を望むことができる。

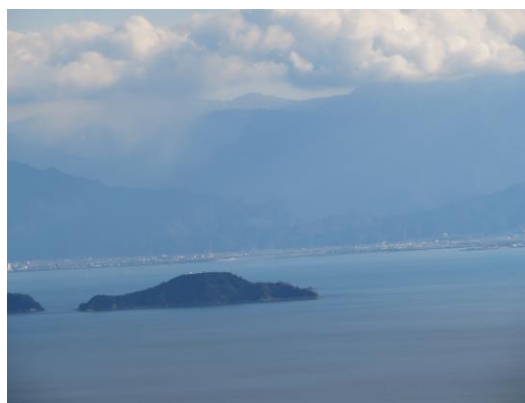
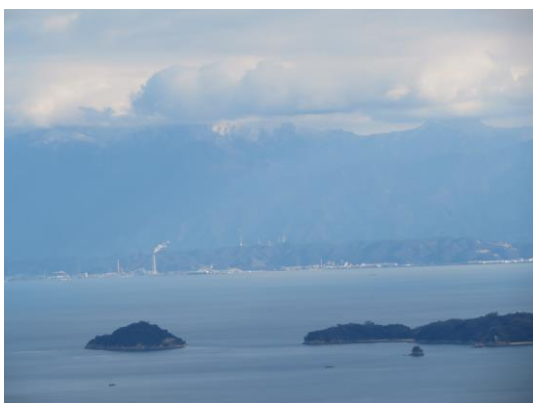
来島海峡大橋



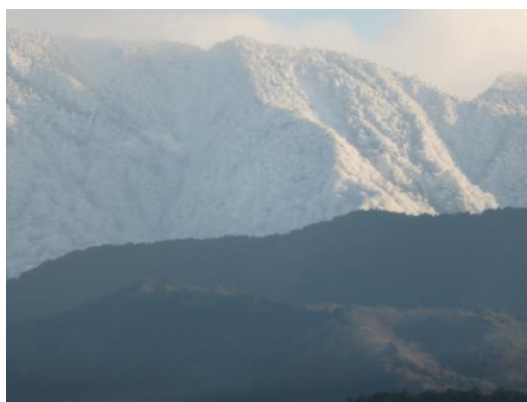
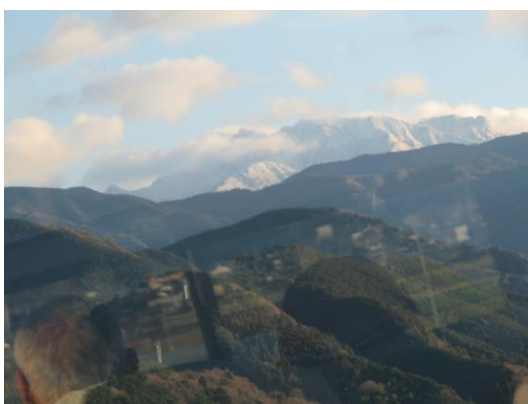
芸予諸島



今治、西条、石鎚山方面



石鎚山



車窓より石鎚山を撮る

杉並三田会 ハイキング散策の会「しまなみ海道6島めぐり旅行」参加者名簿

竹下 妙子	S40 商
黒田 直隆	S40 経
黒田 順子	
渡部 佳子	
前田 昌信	S35 工
前田 静子	
吉崎 達二	S44 工
松原 軍次	
古郡 鞆子	S37 法
庄司 泰典	S45 法
足立 英一	S40 商
小柳 正純	S46 商
小柳 妙子	
小柳 貴子	
曾田 幸弘	S36 商
曾田 園子	
木村 敬三	
木村 恭子	S40 文
宮地 邦子	S41 文
渡邊 美穂子	S40 文

友末 隆子	S39 商
尾本 捷二	
尾本 愛子	S38 文
扇原 浩志	S40 商
扇原 榮子	
森下 尚	S44 工
藤森 靖允	S40 商
藤森 敏子	
田熊 利彰	S44 法
松野 幸子	S42 文
小室 真知子	S53 文
最上 徹	S38 経
久保田 宏	S46 工
久保田 友子	
堀場 勝英	S43 商
堀場 政子	
池澤 敦	S39 工
岩田 誠	S36 工
塩脇 昌子	S44 文